

まほろば徳・得講座【アンケート】の声から(写真付)



多くの学生会員の皆様に、ご参加を頂きました。ありがとうございました。

講師：竹柏会代表理事

第一講 7月5日(水)

久保 三左男先生「人事担当者が求める学生」

—面接試験までに知っておくと得する話—

○ (4) 回生

面接が近付いてきている中で、このような話を聞く機会があるというのは、とても心強いつ感じました。面接でどのようなことを話すのか、どう伝えるのかは、どうしても上手に伝えることばかりを意識して練習していました。自分のことを、どう思っているのか、素直な気持ちで伝えることが大切だというのは、当たり前のように、難しいなと感じました。今回の講座を参考に、面接に向けて準備を進めていきたいです。ありがとうございました。👤

○ (4) 回生

理由や根拠などをうまく言おうとばかり面接の練習をしていました。しかし、久保先生のご講話をお聞きしてありのままの自分を知ってもらふ事の大切さを学ぶことができました。児童の可能性を伸ばすことができる教員になりたいという自分の想いを大切にしていきます。ありがとうございました。👤

○ (4) 回生

お話を聞いて、我に返って考えると私の個性や気持ちを出せていなかったと思いました。何か良いことを言わなければ、他の人にはない視点から話さなければ、ということばかり考えてしまっていました。上手くまとめられなくても、まずは自分のありのままの素直に感じていることや考えたことを伝えることが大切だと学ぶことができました。面接試験があるので、私の良さや私にできることについて今一度考えて、私の思いを伝えたいと思います。貴重なお話ありがとうございました。👤

○ (3) 回生

本日お話していただいた内容としては、人に身に付いた礼儀というものや、物腰等といったものが重要とされ、己の受け答えを完全なものであるということを感じるのではなく、自分が不完全であるということを感じすべきであると言えるのではないだろうか。先生が教員になるための絶対条件として必要なものは子どもを愛しているということをおっしゃられていたが、私が実習中に子どもと触れ合うということに安心感を覚えました。👤

○ (3) 回生

京都府の採用試験を受けようと思っていたので、とてもためになりました。教師を目指すにあたって、採用試験は本当に大きい壁であると思うし、その壁をのりこえないと、教師になれないと思ったので、先生も言われていたように、自分の長所と短所をきちんと理解して、深めていくことが重要だと考えた。受験の時も倍率も気にするけど、倍率低い＝受かりやすいじゃなくて、自己アピールをきちんとして、後悔がないようにやりきりたいなと思った。「うまくやろう!」という意識よりも、「自分のありのままを知ってもらおう」といった意識で取り組みたいと思った。教育実習でも感じたように子どもの声に耳をかたむけることが本当に大切だなと思った。子どもの声に耳をかたむけないと、子どもの事を理解することはできないと思ったので、自分が教えないと!ってなるんじゃないじゃなくて、あくまでも子ども主体で考えるべきだなと思った。本当にためになったし、すてきな時間でした。ありがとうございました。🙇

○ (3) 回生

普段の大学の授業では聞くことができないような実際の教員採用試験の話が聞けてとても面白かったし勉強になりました。自分は子どもが好きなので、そこをもっとふくらませるようにかけ寄って来た子どもを抱きしめられるように、子どもの心に安心を与えることができる人になりたいなと思いました。面接への挑み方、わからない問いには無理に答えず正直に、謙虚にというように、実際の現場の話を交えながら聞けてとても参考になりました。試験から赴任校決定までの簡単な流れもあまり知る機会がなかったので、教えていただけで良かったです。🙇

○ (3) 回生

今回この講座でのお話を通して、私の中で漠然としていた教員採用試験というものがどこか身近に感じることができました。対策をすればするほど、型にはまった面接になってしまいがちだと思いましたが、「自分らしく」をモットーにやっていきたいと思います。わからないことだらけなので、教採の「基本のキ」から、教えていただく機会があれば嬉しいなと思います。本日はありがとうございました!! 🙇

○ (2) 回生

本日は、ご講演をありがとうございました。今の教育事情や面接の細かなテクニックと盛りだくさんでとてもためになりました。教員の絶対条件である、「子どもがかけ寄ってきたら、抱きしめてあげられる人」を目指し、子どもと関わる活動を増やしていきたいと思います。2年後の教員採用試験で、謙虚に自信をもって自己アピールできるように自分を常に見つめていきたいです。本日は、本当にありがとうございました。🙇

○（１）回生

久保先生のお話を聴き、とても児童・生徒に対する情愛が深い方だなと感じました。やはり、子供達の時間の多くを共に過ごす教職を目指す者として、子供達の家庭事情や性格の事をよく勘案し、愛情をもって接して、向き合うことが大事なんだと改めて思いました。また、本日とても印象に残った言葉に「適度な謙虚さ」があります。近年では主体性を求められるにつれ、“社会性の低下”というものが否めないと思います。学校という社会集団に於いて、その統率を執る先生が謙虚でなければ気持ちや誠意が伝わらなく、教員に必要な条件である事を再認識する事が出来ました。本日は貴重なお話をありがとうございました。🙇

○（１）回生

教員採用試験について考えることのできた、有意義な時間となりました。まだ、3年後に試験を控えている者ですが、4回生の際に試験を受けることを視野にいれているため、お話を伺いたいと思い、参加させていただきました。面接に関するお話は、私が試験を受けるまでに、この大学生活をどのように過ごすことが出来ればよいか、という今後について思考する大切な時間を作ることができました。大学入学後、学業だけでなく、部活動、ボランティア活動、アルバイトなど様々なことに取り組んでいますが、その約3ヶ月をふりかえり、また将来のつながりを思案する良い機会になりました。本日は、このような場を設けて下さり、ありがとうございました。🙇

